

記入日 2023年 10月 11日

助成団体名 水俣病センター相思社

2022年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

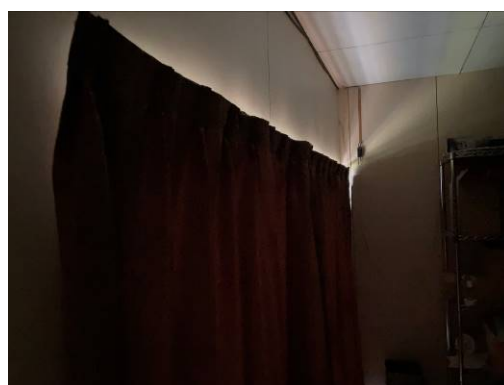
企画テーマ	水俣病関連資料保存のための環境整備
取り組み実施期間または日時	2022年11月～2023年9月

【取り組み目的】

1. フィルム・テープ等、音声資料、映像資料のデジタル化
2. 資料保存環境の改善
3. 資料活用環境の整備

【取り組み内容と成果】

1. フィルム・テープ等、音声資料、映像資料のデジタル化
 今年度は、8本のマイクロカセットテープのデジタル化を行った。マイクロカセットテープは、マイクと一体化したレコード機器で使用されていたカセットテープであり、社内に再生できる機械がないため業者（東京光音）にデジタル化を依頼した。8本のうち1本には音声が入っておらず、他の3本についても元データのノイズが多かったり、劣化が深刻であり音声を聞き取ることはできなかった。残りの音声については活用可能な状態である。船大工の聞き取りや、1980年代に行われた計石部落での集会の音声など貴重な資料が含まれている。
2. 資料保存環境の改善
 主に未整理資料を保管している第二資料室の入口にはカーテンを設置しているが、もともと入口の大きさに対してカーテンのサイズがあっておらず、経年劣化による破れなどもあり、日光が室内に入っている状態であった。そこで、今年度は遮光カーテンを購入・設置し、紫外線を減らし保存中の資料の劣化を抑えられるようにした。



▲第二資料室 遮光カーテン設置前と設置後

また、第二資料室に保管している資料の中には、ユージンスミス、アイリーンスミスによるオリジナルプリントの写真がある。これまでは、額縁に収めた状態で保管していたが、額に使用されているアクリルの劣化は写真に悪影響を及ぼす可能性があり、専用の中性紙箱を購入した。今後は、中性紙箱に除湿剤などを入れて長期保存に適した環境を整えて保管をしていく予定である。

3. 資料活用環境の整備

今年度も、これまで継続して利用しているOPACのサービスを使い、資料のデータベースを社外に公開することができた。コロナ禍の影響も少なくなったこともあり、研究者や報道関係者など例年よりも多くの利用者から資料に関する問い合わせがあり、多数の使用利用につなげることができた。

【備考欄】